

第6回水産ワーキング・グループ 議事概要

1．日時：平成29年11月17日（金）12:30～12:57

2．場所：合同庁舎第4号館11階第1特別会議室

3．出席者：

（委員）金丸恭文（議長代理）、野坂美穂（座長）、原英史（座長代理）、林いづみ

（専門委員）泉澤宏、中島昌之、花岡和佳男、本間正義

（事務局）田和室長、窪田次長、佐脇参事官

4．議題：

（開会）

水産ワーキング・グループにおけるこれまでの議論の整理

（閉会）

5．議事概要：

佐脇参事官 それでは、時間となりましたので、「規制改革推進会議 水産ワーキング・グループ」を始めます。

長谷川委員、有路専門委員、下芋坪専門委員、渡邊専門委員は、所用により御欠席です。

原座長代理は10分から15分ほど遅れてお見えになります。花岡専門委員も15分ほど遅れてお見えになります。林委員は、お申し出はありませんでしたけれども、少し遅れておられるようでございます。

また、お昼の時間でございますので、簡単なお食事を用意してございますので、御自由にお召し上がりください。

それでは、ここからの進行は野坂座長にお願いいたします。

野坂座長 ありがとうございます。

それでは、本日の議事に入ります。

本日は、水産ワーキング・グループにおけるこれまでの議論の概要について整理をしたいと思います。

当ワーキング・グループでは、これまで5回にわたり水産関係の皆様から丁寧にヒアリングを行ってまいりました。短期間ではありましたが、委員、専門委員の皆様、御出席いただいた関係者の皆様の御協力を得て、水産分野に携わっておられる方々から一通りお話を伺ったこととなります。

そこで、今後の検討につなげていくために、一旦ここでこれまでの会合における委員、専門委員の皆様の御議論を整理したいと思います。事務局に資料をまとめていただきましたので、説明をお願いします。

佐脇参事官 お手元に、A4縦置き資料とA4横置き資料の2つがセットになっており

まして、A4横置き資料は縦置き資料にとっての参考資料という位置づけでございます。縦置き資料で議論の整理といたしまして現状認識その他、項目を書いてございます。横置き資料の「議論の整理」は、項目ごとに委員、専門委員から出た意見ということで列記した形になってございます。

なお、項目立ては、今期キックオフのときに座長名で公表しております、当面の審議事項の項目立てに準拠して整理した形になってございます。

それでは、A4縦置き資料を読みたいと思います。

規制改革推進会議水産ワーキング・グループにおける議論の整理（案）

水産ワーキング・グループにおいては、9月20日の第1回開催から5回にわたり、農林水産省、水産業関係事業者、関連団体等からヒアリングをし、質疑、意見交換を行った。その中で出されたテーマや観点を今後の検討のために整理したので、公表する。水産ワーキング・グループにおける議論は継続中であり、今後も、以下に示したテーマや観点に限らず、検討を進める。

< 現状認識 >

- 世界的な魚食需要の増大と人口増に伴う消費総量の増大
 - 高齢化する漁業就労者、若い担い手が不足する水産業の生産現場
 - 高齢化する漁船、小規模・老朽化する養殖場等の設備
1. 漁業の成長産業化に向けた水産資源管理の点検
 - 漁業の成長産業化のために、目標数値と時期を定めた資源回復の必要性
 - 持続可能な漁業の実現に向け、アウトプットコントロールを基本に、インプットコントロール、テクニカルコントロールを最適に組み合わせた資源管理のあり方
 - 国際的動向を踏まえた多様な評価手法・自主規制・行政管理のあり方
 2. 水産物の流通構造の点検
 - 水産物流通におけるトレーサビリティの確保、水産物の付加価値を高める取組
 - マーケットインの発想による海外市場を含む需要の開拓、MSC・MEL等の認証制度の活用
 - IUU漁業等の不適切な漁業への対応
 3. 漁業の成長産業化と漁業者の所得向上に向けた担い手の確保や投資の充実のための環境整備
 - 意欲ある担い手が円滑に漁業に参加し得る、漁業資源管理や漁業許可制度、船舶安全法等各種制度のあり方
 - 航海士等の有資格者の確保と外国人材の活用
 - 世界の養殖業と比較した場合の日本養殖業の制度的課題
 - 養殖技術の戦略的開発と魚病への対応
 - 漁協の事業、組織体制、機能、役割、ガバナンスの見直し。経営の透明性の確保

- 漁協と行政・民間企業との連携による共同事業の活性化や買参権の扱い
- 若者が生き活きと働くための現場環境のあり方

以上でございます。

野坂座長 ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明について、補足事項等がございましたら御発言をお願いいたします。

なお、御発言を希望される際には、お名前の書かれているプレートを立てていただきますようお願いいたします。

花岡専門委員、お願いいたします。

花岡専門委員 ありがとうございます。遅くなってしまってすみませんでした。

「1. 漁業の成長産業化に向けた水産資源管理の点検」の最初のところです。当たり前かもしれないのですが、**「目標数値と時期」とドラフトにインプットさせていただきましたけれども、これは達成するのが何年まででどういう状態になるかというところを明確にするというのが大事だという意味合いでインプットさせていただきました。ただ単に数字がその計画にあればいいというだけではなくて、いつまでに何を達成するかを定めるというところが大事なかなと思います。**

野坂座長 御意見、ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。中島専門委員、お願いいたします。

中島専門委員 中島でございます。

「水産物の流通構造の点検」というところで、「MSC・MEL等の認証制度」とあるのですけれども、今後、ASCという養殖の認証というものをこれからしっかり進めていかなければいけないと思っております。

マグロについても、今いろいろとASCの認証を取るべく努力をしているのですけれども、なかなか前に進めないといいますが、ASCを取るために何をどういうふうにしたらいいのかというのが全くないという状況にありますし、基本的に日本のメインの養殖魚でありますブリ、カンパチについても、こういった点が遅れているのではないかなと。これを取ることによって、輸出というものももう少し拡大できるのではないかなと考えております。

野坂座長 御意見、ありがとうございます。

第1回から第5回の議論の中にはASCは出てこなかったのですけれども、養殖に関する認証制度、ASCもこちらに事務局のほうで追記ください。

佐脇参事官 どこに入れましょうか。MSCの後ろに入れればよろしいですか。

中島専門委員 やはりMSC・ASCではないですか。

佐脇参事官 「MSC・ASC・MEL等」と。では、ここに入れるということによろしゅうございますか。

野坂座長 はい。それをお願いいたします。

金丸議長代理、お願いいたします。

金丸議長代理 現状認識のところですが、1番目は需要が増えて消費も増えていると書いてあって、一方で国内は消費が減っているわけですよね。それから、魚食離れみたいな意見も出ていたのではないかと思いますので、1番目と2番目の間に日本市場のことについて触れておいたほうがいいのではないかと思います。魚食需要の減少と消費総量の減少、両方あるのではないですか。

中島専門委員 「少子高齢化による魚食離れ」でどうでしょう。

佐脇参事官 それでは、「国内における少子高齢化等を背景とした魚食需要の減少」でいかがでしょうか。

中島専門委員 「魚食需要」というよりは「魚食消費」の方が良いですね。

野坂座長 では、「国内における少子高齢化等を背景とした魚食消費の減少」ということにいたします。

花岡専門委員、お願いします。

花岡専門委員 現状認識のところ、先ほど金丸さんがおっしゃったみたいに、国内による消費も減少しているのに加えて生産が減少している。資源管理ができていないことにより生産量が激減しているというところも認識すべき大事な現状なのかなと思います。

野坂座長 それでは、具体的に先ほどの文言の前に追加でよろしいでしょうか。

花岡専門委員 そうですね。

野坂座長 では、先ほどの「魚食消費の減少」の前に入れていただけますでしょうか。

佐脇参事官 どのように入れましょうか。何が減っていると書くのが一番正確でしょうか。

花岡専門委員 「漁獲量」が正確なところかなと思います。日本の生産者による、漁業者による漁獲量。

佐脇参事官 そうしますと、先ほどの「国内における少子高齢化等を背景とした魚食消費の減少」の上に、「国内漁獲量の減少」と。

花岡専門委員 そうですね。消費量の減少の理由として少子高齢化というのがあるので、もし漁獲量の減少にも理由をつけたほうがいいのであれば、資源管理の不十分、不足によりというところがふさわしいかなと思います。

本間専門委員 長くなるので、もう一つ立てたらどうですか。上のほうは世界的な需給の問題でしょう。それに対して国内はという形でもう一つ。

佐脇参事官 「世界的な魚食需要の増大と人口増に伴う消費総量の増大」で改行いたしまして、その下に「国内漁獲量の減少」と書くということでございますか。

本間専門委員 はい。

野坂座長 では、よろしいでしょうか。

泉澤専門委員、お願いいたします。

泉澤専門委員 今、花岡専門委員がまさに言ったとおりのことですが、やはりヒ

アリングの中でも資源管理に対する御意見が結構多かったと思うのですね。その中で、例えばTACの数字、あるいは漁獲枠を算定するためのデータの不足とか、資源管理に対する不備などの、問題点がかなり多く挙げられたと思うので、資源管理に対する対応の遅れによって幾つかの魚種が減った。クロマグロも含めてそうですけれども、沿岸海域の何種類かの魚種が減ってしまった。

そういったことを現状認識の中で書いていただければと思います。今、言われたとおりの国際的なことと国内的なことを2段に分けて、下のほうにそれを書いていただければ、それでいいと思います。

野坂座長 最初に花岡専門委員が言われましたように、資源管理の不足によるという原因を強調したほうがよろしいということですね。

泉澤専門委員 そう思います。

花岡専門委員 もし「資源管理」だけを書くのが問題であれば、「資源管理など」とか、「資源管理や気候変動」とか、わからないですけれども、ほかのものをつければいいと思います。「資源管理」という言葉はやはりここにあるべきかなと思います。

中島専門委員 やはり環境の変化というのもあるのではないですかね。

野坂座長 林委員、お願いします。

林委員 ありがとうございます。今の関連では、現状認識のところにもそういった日本における魚食文化の変容とか資源管理の不徹底というのが少し入るとしても、そのアウトプットとしては、私の理解では1.の最後の行、「国際的動向を踏まえた多様な評価手法・自主規制・行政管理のあり方」というところに、例えばノルウェーのような実効性のある政策を日本でも検討すべきではないかとか、いろいろ入ってくるのかなと思います。

また、魚食文化のところについても、2.の2番目に「需要の開拓」が入っておりまして、そこが出口の話なのかなと思います。具体的な点はある程度1.2.で飲み込んでいると思いますので、現状認識のところはごくキーワード程度でよろしいのではないかと思います。

野坂座長 今の林委員の御意見に対していかがでしょうか。

泉澤専門委員、お願いします。

泉澤専門委員 キーワード程度でいいのですけれども、文言として「資源管理」は入れたほうがいいと思うのです。

環境変化によって減っているとか、そういう科学自然的なことよりも、人為的に管理をする体制が失策だったというのもありますし、やっていないというのもあります。ヒアリングの中でも皆さんからそういった意見がかなり多く聞かれたので、この資源管理の、厳しく言うと不備ということを強調したほうがいいのではないかと考えます。

佐脇参事官 今のお話は、「国内漁獲量の減少」の説明の話と理解してよろしゅうございますか。

泉澤専門委員 そうですね。自主的なやり方に任せて今までやっていたところが多いの

で、それはルールとして今まできちっと決めてきていなかったということがあるのですね。その部分をうまい文言で表現できないかと。

野坂座長 林委員、お願いします。

林委員 現状という状態の評価だけで言えば、あるのは我が国における魚食文化の変容と漁獲量の減少、この2点かなと思うのです。1番目が世界的なほうでは増大していると言ひ、2番目として逆に日本国内ではむしろダウンしているという対比はいかがでしょうか。

金丸議長代理 それと、資源管理はいろいろな意見が出たので、「課題の多い資源管理」とか。課題は何かと言われたら、下のほうに出てくるようなことではないかと。

漁獲量が減っているというのとつなげて書くと、必ずしもそうではないという反論が出るから、行を分けたほうがいいのではないですか。

本間専門委員 関連して。同じような感想を持ってしまして、資源管理が必要だねということを強調することであって、そうしないと、1.の一番初めの「目標数値と時期を定めた資源回復の必要性」は現状認識のどこから来るのという話にもなるので、そのあたり、資源に関する言葉は何か入れたほうがいいと思います。

佐脇参事官 そうしますと、林委員がおっしゃった提案は、先ほどの「国内における少子高齢化等を背景とした魚食消費の減少」の書き方にも関わってくるわけです。

したがって、一つの方法は、「魚食消費の減少」という案を書きつつ、その下に「国内漁獲量の減少」と書き、さらに「課題の多い資源管理」というふうに書くという選択肢と、あるいは「我が国における魚食文化の変容と漁獲量の減少」とまとめて書いた上で、下のほうに「課題の多い資源管理」と書くという選択肢があるかと思ひますけれども、どちらがよろしいでしょうか。

金丸議長代理 後者の、魚食文化の変容と漁獲高が獲れないこととあまり関係ないのではないですか。何々と何々という、それがペアリングになるので、そうではなくて、課題は現状認識で列挙しておいたほうが、後でつながるものはつながるし、つなげられないものはつながらない。皆さんが魚食離れがあるからといって、それを受けて漁師の獲り方とか獲る量が変わっているとは私と思ひない。

泉澤専門委員 そういった漁獲調整はしてなくて減っているということですから、やはり資源的な問題でも、放っておいても減っているものもあるでしょうし、人為的に減らしているものもあるので、その辺はなかなか区別がつかないので、分けて書いたほうがいいと思ひます。

金丸議長代理 私も、分けたほうがいいと思ひます。

野坂座長 では、魚食消費の減少と漁獲量の減少を分けて、さらに資源管理についても、3つばらばらに分けましょう。

佐脇参事官 まとめますと、「魚食消費の減少」の次に「国内漁獲量の減少」と書き、さらに最後に「課題の多い資源管理」と書くということによろしいでしょうか。

野坂座長　そうです。お願いいたします。

ほかに御意見はございませんでしょうか。

それでは、ほかに御異論がなければ、皆様のこれまでの議論を整理した資料として公表したいと思います。

「漁業の成長産業化等の推進と水産資源の管理の充実」に向けた規制改革については、御承知のとおり、本年6月に閣議決定された「規制改革実施計画」に基づき、平成30年、すなわち来年に結論を出すべく、農林水産省において鋭意御検討されております。

農林水産省には、本日公表する「議論の整理」も踏まえつつ、引き続き、よりよい改革の実現に向け検討を進められるよう期待します。

水産ワーキング・グループにおいても、農林水産省とも議論を深めながら、本日整理したテーマや観点に限らず、引き続き検討を進めてまいります。

委員、専門委員の皆様におかれましては、引き続き、よろしくお願いいたします。

それでは、本日は以上といたします。

最後に、事務局から何かございますか。

佐脇参事官　次回の日程につきましては、後日、事務局から御連絡いたします。

野坂座長　それでは、これで会議を終了いたします。ありがとうございました。